TSUMUGI通信　VOL.80

2026年11月



一般社団法人地域連携ネットワークみえ

三重県伊勢市御薗町長屋１９６３

㈱ｴﾎﾞﾘｭｰｼｮﾝ内（☎0596-63-5080　FAX0696-65-7006）

E-mail　info@3c-mie.net　　https://3c-mie.net/

すっかり日も短くなり肌寒い朝を迎えるようになりました。
月が替わっての報道は、アメリカの中間選挙でトランプ政権に厳しい審判が下され、今後の世界の動向や経済情勢に注目が集まっています。今後の焦点はトランプ大統領がどう動くかということのようです。 絶大な権限を持つ大統領制について私たちが理解をするのは難しいですね。 しばらくは、私たちの生活に影響する事象がどうなっていくのか、様子見でしょうか。
一方わが国では、今年の秋の叙勲が発表されました。 幾人かの知人が受賞されましたが、それぞれの分野で真摯に取り組まれた経年の結果と、心よりお祝いを申し上げます。

さて、今回は、この度 御浜町長に就任されました東地（ひがしじ）新町長にご投稿をいただきました。 厳しい環境であることは否めない東紀州ではありますが、持ち前のバイタリティでご活躍されることと思います。



このたび、令和8年10月10日付で御浜町長に就任しました東地正登（ひがしじまさと）です。これまで町職員、そして副町長として長く行政に携わってまいりましたが、新たに町長という重責を担い、ふるさと御浜町のために働かせていただけることを、大変光栄に思うとともに、町民の皆様のご期待に応えていけるよう、全力で町政を前に進めてまいる所存です。
御浜町は温暖な気候を生かした「年中みかんのとれるまち」として、県下ではよく知られた町です。しかしながら近年は、人口減少に伴い、生産者も減少し、みかんの生産量も少なくなってきました。かんきつ産業の低迷は町の経済活動にも大きく影響します。町ではかんきつの担い手確保など、懸命に取り組んでいますが、持続可能な町づくりを進めるうえで解決が求められる多くの課題があることも事実です。

私は、「御浜町をみんなで未来へ」を基本理念に、次の4つの決意を掲げ、これからの町づくりに臨んでまいります。

1. 子どもたちの笑顔と健やかな暮らしを
   魅力ある子育て支援と教育環境の充実を図ります。
   高齢者や障がい者に優しい福祉の町づくりを進めます。
   健康づくり・地域医療の充実を推進します。
2. 安心して暮らせる毎日と環境を
   高速道路など、生活基盤の整備を促進します。
   防災減災、安心安全の町づくりを進めます。
   上下水道の健全運営、生活環境の保全に取り組みます。
3. 地域の活力と町の魅力を未来へ
   みかん・米・水産物など一次産業を活性化します。
   商工業の振興と雇用創出を図ります。
   地域の魅力・集客力の向上と情報発信に取り組みます。
4. 人がつながり誰もが輝ける未来へ
   町の輝きと未来を担う人づくりに取り組みます。
   移住定住の推進と交流人口の創出を図ります。
   地域活動、伝統・文化の伝承に取り組みます。



この4つの決意は、私自身その策定に携わり、今年度からスタートしている「第６次御浜町総合計画後期基本計画」に内包されているものであり、職員の皆さんと私の思いをしっかりすり合わせながら、具体的な施策を展開してまいります。
町長が変わったからといって、たちどころに町が変わるわけではありません。しかしながら、私自身が何かが変わるきっかけを与え続け、それに共鳴し自ら行動する住民の皆さんが増えていけば、地域は変わると信じています。「御浜町を　みんなで未来へ」 みなさんとともに歩んでまいります。

トピックス

　先月、グランキューブ大阪で EDIX 教育総合展がありました。
そこのセミナーで「FC 今治高校里山校」の存在を知りました。 それは元サッカー日本代表監督の岡田武史氏が学園長を務め、愛媛県今治市に2024年に誕生しました。 文字通りサッカークラブ・FC 今治と連携して教育に取り組む高校です。
岡田氏が講演で共助のコミュニティづくりをテーマに話しをされていて、そこで「里山スタジアムが学校になったら面白い」という言葉から高校をつくる構想が進められたそうです。
ここでは、1年生で四国巡礼、2年生は雪山体験、3年生は海外研修（ラオス、アフリカ）で自身を磨くというカリキュラム。
企業ゼミ連携として6社が高校生を受け入れて現場実習を実施されています。
入学当時は、やんちゃな子どもたちが3年経つとすっかり変わった人間形成がみえるそうです。
　合わせる、揃える、整える、という管理教育（お背中ピンと手はお膝）は化石化しているにもかかわらず、世の中まだまだ過去踏襲でされていることも多いとのことです。
　分かっているようで、改めて目からウロコのお話しを聞くことが出来ました。





企業と学生の協議風景

　この度、伊勢市、伊勢商工会議所が共催して地域企業がかかえる課題を鳥羽商船高専の学生のみなさんに解決案を提案してもらうプログラムが実施されました。
　これは企業が鳥羽商船高専に出向き、学生たちと協議して、後日、各研究室から選抜された学生のみなさんからそれぞれの企業課題に対して解決案をプレゼンしてもらうというものでした。
　プレゼンを聞いて、企業のみなさんは、「もっと聞いてみたい」とか「一緒にやってみたい」という札を挙げて、楽しく交流が行われました。



　学生たちは AI（人工知能）を活用したスーパーでの食品ロスの削減や人手不足解消に向けた SNS（交流サイト）による情報発信。またスマートグラスを使った新人研修といったさまざまな切り口から若者ならではの提案がなされました。

　なんといってもそれらの提案に対して企業のみなさんが、左写真の札を挙げて応えるのは、さながら新人タレントのオーディションのようで、高専教授の遊び心ある企画も面白かったですね。



学生のプレゼン風景

編集後記

　田舎のあるある風景
右の写真は稲刈りが終わった後の農道の風景です。 道路の左右には背高泡立草（セイタカアワダチソウ）が生い茂っています。人の背丈ほどに伸びていますが、この先は十字路となっていて、毎年車の事故が絶えません。 本来、農道は農車両が優先で一般車両の通行は控えて下さいということですが、現実は通勤路となっていて多くの車両が走ります。
　写真の道路は広く見えますが、アワダチソウのために対向できません。本来は草を刈ったら対面走行はできるのですけどね。
　後継者不足で一部の担い手農家で多くの田を預かっていて手が回らないのです。 こうした現状を地域で何とか解決できないものかと考えるのですが・・・。 高齢化の現実が対応を阻んでいます。

